

「高崎山だより」

発刊 100号記念号!



高崎山だより

VOL 18 62年7月1日

高崎山のふんころがし
春になると、サルがふんとしていた
ンチがゴリゴリとひとりでに動く
とがあります。自然の清掃者フン虫
たちのしわざです。



カブト虫やカマゲンの仲間、ダイコクコガネやセンコガネ、
エンマコガネは、食フン虫といって動物の排泄物を食べて生活を
しています。

高崎山のようにサルたちの藪が多いと、サルのうんちを舐めて
自分でいじめんべ、山の中を歩いていると、バラバラになっ
て食べられたあとのサルのウンチや、フン玉をころがしている
姿を見ることがあります。「フン虫の昆虫記」に出てくる
マオシコガネもフン虫の仲間です。

ゲノのマウンティング

高崎山で一番古いボス B群ゲノは、冬のスズメの終りに
10月入って、子にC群のメスたちと仲良くしています。
子前中は自分の群れB群を離れ、C群に近づき、子後
は自分の群れに戻る生活と繰り返しています。そして群れに
戻ると、子前中と同じようにマウンティング(争奪)をするよう
になりました。

この行動は群れと一時的に高まっているゲノが、自分の群れに
戻ると、自分の群れに上位だと言うことを再認識させる為、のように思われ
ています。群れの仲間にも自分のボスゲノだとアピールしているようです。



B群ボス ゲノ 中撮



B群ボス 3巻 ドラゴン

1984年11月11日高崎山にこの
群れのサルも出ていない
「只今0匹」の時、突然4匹
の若いオスサル10匹余りが出てきた。
A、B、Cなどの群れにも属してい
ない

サル達です。少し餌を与えて観察してみると、右半身のないサルの
目につまじり。このサルがこの若オス集団のリーダーのようです。
実はこのオスサルは1982年高崎山下の日笠峠付近まで遊んで
いて、見失われおす首を切断したドラゴンと言われます。
その後、この若オス集団は、やはり只今0匹の時、2度高崎
山を離れ、それからは全く見ることはありませんでした。
1985年10月、東慶シーズンがスタートした頃、B群の外遊サ
ルドラゴンがいろいろと発見しました。

A群に生まれたドラゴン(1977年1月10日生
母サル らうさぎ)が群れを離れて、一時若オス
集団にいて、それからB群に入りに来て、今も
オスサルは5歳で母サルのいる群れを出て行く
と言われていたことが、ドラゴンの行動でも
確認されました。

自然観察コース ご案内
夏休みには自然観察コースにふれて下さい
ご意見、ご要望をお寄せ下さい。高崎山 大分県自然博物館

人物登場・サル登場

今回は高崎山自然動物園に勤務して2年目
の種村将さんが、自分の仕事とお気に入りの
サルについて話をします。



ペンゴ



私の一番好きなサル
C群ペンゴ
元B群ボス。一匹のメスサル(C群)
に恋をして、C群に移り変わったサル。
人間社会でいえば、一つの会社の社長
が、他の会社の社員に恋をして、地位
を捨てて、会社を移ると同じといえ
る。とても真似のできることはない。

私の仕事
朝早くから入園者を迎ったり、車の整理をするのが私の仕事だ。連休など、
車の多い時などは一日中朝車道の中を走り回り、車の整理にあたることもあ
り、くたくたになるが、たくさんのお客さんが高崎山のサルを見るために来
てくれているのだと思うと疲れも吹き飛ぶ。
又、私の楽しみは、昼休み、サル寄場に行きサルにあうことである。

比べてみました種村将とC群ペンゴ

	種村将	C群ペンゴ
年齢	21歳	16歳
体重	75kg	12kg
血液型	O型	B型
好きなこと	スポーツ、ドライブ	自由に生きていくこと
好きな言葉	一巻	ホイホイ

サルは仲間を呼ぶ時、ホイホイと鳴く。
ご意見、ご要望をお寄せください。
高崎山自然動物園
大分県大分市3-9-1 TEL 30-2000

高崎山だより

№44

1995年4月1日

わたしたち一年生
友達になろうね



高崎山保育園

コサルは生後十ヶ月を過ぎた頃から、毎朝のジャングルジム
【保育園】に集まり、コサルたちだけで遊びながらサル社会の
ルールを覚えていきます。

「高崎山だより」発刊への道のり

「高崎山自然動物園だより創刊0号」が発刊されたのは1983年1月1日、今から26年前になります。

高崎山サル寄せ場の方から声が上がったものの、なかなか認められず当時の若手職員は苦心されたようです。それでも一丸となって手作りの創刊号を発刊。「始めたからにはやめられないぞ！継続は力なり!!」を合言葉に頑張ってきました。

当時は印刷技術も現在ほどではないし、コストがかからないようにということで、職員手書きのものでした。大分駅の地下道には模造紙に書いた物を掲示していました。記事の提供・構成、書き下ろし・写真・イラスト…と担当が多かったため、本当に職員皆での作業だったそうです。

「現場にいる係員だからこそ、今の高崎山の状況を伝えることができるし、動物相手だからこそ話題が尽きなかったのだろう」と、初代の編集長の河野志津子さんは思い出話を懐かしみながらインタビューに答えてくれました。

職場での自作の広報誌というのは当時とても珍しく、新聞にも掲載されたということです。

創刊号の内容は、「各群れのαオスの紹介、高崎山の紹介」「サル生活シリーズ」「注意事項」などが掲載されています。

創刊0号 1983年1月1日 係員が全て手作りで発刊

高崎山自然動物園だより 創刊0号
1983.1.1

明けましておめでとつこさいほす



A群 942頭
B群 300頭
C群 235頭

高崎山



サル生活シリーズ
1. あかんのぼうのあかひ

こどもサルは、生後1ヶ月ほどで、お母さんの群れから離れず、一匹で遊びます。2ヶ月を過ぎる頃から、お母さんから離れ、お父さんや周り、本群れを回るようになります。そして、3ヶ月頃には、こども同士で遊ぶようになります。遊びを通して知恵をつけ、これから生きていくための決まりを覚えていきます。

「あかひがあるということ」

群れをえたり、推しをしたりすることがサルを可愛がることではありません。犬や猫と違って高崎山のニホンサルにとって、(さわる)とか(かく)という行為は、可愛がることではなく、外部からの攻撃と同じことなのです。ニホンサルの自然な生活を妨げないで、そつとしておくことがサルを大事にすることであり、結局「可愛がる」ということなのです。

★サルの見守りにあたってのお願いをして下さり。

- ① さわらない。
- ② つかまらない。
- ③ 食べ物をあげない。

印刷法、印刷費をすべてお任せください。
大分市APM 高崎山自然動物園 TEL.0975-22-1010

秋篠宮殿下

秋篠宮殿下が高崎山自然動物園にお立ち寄りになりました。

平成20年11月27日(木曜日)に殿下が、会議で大分市に来られました。



その際、高崎山自然動物園にお立ち寄りになり、

河野業務課長が「サルの生態」などの説明をいたしました。

また、サル寄せ場では、サルの「イモの餌やり」の情景をご覧になり、

楽しまれ、サルに関心を持たれたようです。

●大分市内の小学生は入園料無料です。名札を見せて入園して下さい。●住所・電話番号に変更・訂正がございましたらご連絡下さい。

ご意見・ご要望をおまちしています



国立公園

高崎山自然動物園

〒870-0802 大分市神崎3098-1

Tel.097-532-5010 Fax.097-536-2500

<http://www.takasakiyama.jp/>

✉ info@takasakiyama.jp